

| | | |
|---|------------------------|-------------------|
| <p style="text-align: center;">多国籍企業論</p> <p style="text-align: center;">Theory of Multinational Corporations</p> | <p>(教員名) 有賀 敏之</p> | |
| <p>アジア・ビジネス研究分野 中核科目</p> | <p>講義科目</p> | <p>選択</p> |
| | <p>1 単位</p> | <p>2018 年度・後期</p> |
| <p>I 科目の主題</p> <p>今日、名の知られている大企業はことごとく多国籍企業でもある。そればかりか、日本国内の中小企業にも多国籍化するものが現れて久しい。今や多国籍企業という範疇は特殊なものではなく、一般の企業活動の一側面として把握されるべきである。</p> <p>担当者自身による過去の研究を踏まえつつ、最新の事例・論考についても紹介してゆく。企業・産業・経済に関する総合的な理解が深まる内容とする。</p> | | |
| <p>II 授業の到達目標</p> <p>本講義においては多国籍企業をその歴史、理論、現状にわたり総合的に論ずることで、企業の国際化を的確に捉える眼を培うことを目標とする。</p> | | |
| <p>III 授業内容・授業計画</p> <p>第1部 序論</p> <p>第1回 多国籍企業の定義と多国籍企業の起源</p> <p>第2回 多国籍企業ランキングの推移</p> <p>第3回 比較国際地域産業論① 一東洋白磁とザクセン</p> <p>第4回 比較国際地域産業論② 一マイセンの形成と発展</p> <p>第2部 多国籍企業の歴史的展開</p> <p>第5回 米国から西欧への直接投資の流入と収益率格差</p> <p>第6回 西欧から米国への直接投資の流入</p> <p>第7回 バブル経済期の日本企業の北米進出①</p> <p>第8回 バブル経済期の日本企業の北米進出②</p> <p>第9回 バブル経済期の日本企業の北米進出③</p> <p>第3部 大合併の時代</p> <p>第10回 自動車産業の事例①</p> <p>第11回 自動車産業の事例②</p> <p>第12回 自動車産業の事例③</p> <p>第13回 金融業の事例①</p> <p>第14回 金融業の事例②</p> <p>第15回 まとめと討論</p> | | |
| <p>IV 事前・事後の学習内容</p> <p>とりたてて予習は不要であるが、授業効果を高めるには、次回の授業までの間に一度ノートを読み直し、関連して自分でも検索等を通じたリサーチを行い、授業内容を膨らませてみることであろう。</p> | | |
| <p>V 評価方法</p> <p>期末のレポート (40 点)、授業時間内に課するペーパーを含む平常点 (60 点)。 なお留学生に対しては、上記に代えて別の評価方法を適用する場合がある。</p> | | |
| <p>VI 受講生へのコメント</p> <p>特になし。</p> | | |
| <p>VII 教材</p> <p>教科書：有賀著『グローバル企業再編』(同文館 2007 年, 第二刷 2017 年)</p> <p>参考書：有賀著『中国日系企業の産業集積』(同文館 2012 年)</p> | | |